



戸来 伝
(柁の会)

桜のまちを目指す際の課題は

老齢化による桜の更新が必要

問 十和田市を桜のまちとして盛り上げるためには桜の管理が大切と思うが、管理に当たる樹木医の人数は。

答 樹木医の資格を取得した職員1名が都市整備建築課に所属しています。

問 樹木医の職員は貴重な人材と思うが、職員の退職後を見据えた市の対応は。

答 育成状況の経過観察や病気の治療といったきめ細かい維持管理を継続するためには、樹木医の力が重要で必要不可欠と認識しています。しかし、定年退職により樹木医としての知識や経験、技術等の継承が困難になると予想されるため、今後の対応については、本人の意向を確認しながら、他市の事例等も参考にして検討していきたいと考えています。

問 桜のまちを目指す際の課題は。

答 官庁街通りの桜については、老齢化による樹勢の衰えから病気に罹患する桜も増えており、桜の更新が必要と考えています。官庁街通りの桜を観光客や市民に長く楽しんでいただくため、ソメイヨシノの後継木としてのジンダイアケボノを中心に、様々な種類の桜の配置について検討していきます。

問 風力発電に賛成の立場として質問する。固定資産税等の収入面や雇用創出の面など、市にかなりの利点があると思うが、市の考えは。

答 風力発電事業の実施には地元の合意形成を得ることが前提となります。現在県において、再生可能エネルギーと地域、自然との共生に係る新たな条例制定に向けた検討や、地域の視点に基づく合意形成手続について検討中であることから、県の取組を注視し、進捗を見守っていききたいと考えています。



山端 美樹子
(自民公明クラブ)

災害関連死審査会の設置状況は

今後、設置に向けて検討する

問 2019年に自治体の災害関連死審査会設置が努力義務化されたが、当市の設置状況は。

答 現在は県に審査会の設置及び運営を委託できることから設置していませんが、委託した場合、認定までに時間を要するため、今後、設置に向けて検討したいと考えています。

問 災害時の罹災証明交付業務にあたる被害認定調査職員数は。

答 税務課固定資産税係の家屋担当4名の2班体制です。

問 罹災証明交付業務に係る研修の状況は。

答 県や各種団体が開催する研修会に都度参加しています。

問 女性の視点を取り入れた避難所運営の取組は。

答 「十和田市避難所運営マニュアル」では、女性のニーズや意見が十分に反映されるよう、避難所運営委員会への女性の参加、男女別更衣室や授乳スペースの確保、女性による生理用品や下着等の配布などを定めています。

問 避難所での性被害に対する取組は。

答 トイレや更衣室等を安心できる場所に設置し女性が巡回する、女性が対応する相談窓口を設置するなどの対策を講じています。

問 災害用井戸を整備する考えはないか。

答 様々な課題があるが、今後調査研究します。

問 災害関連死の予防対策として口腔ケアが重要と思うが、市の対応は。

答 避難所の手洗い場等に口腔ケアに関するリーフレットを掲示し、周知・啓発に努めます。

問 トイレカーの導入を検討しては。

答 現在のところ備蓄の簡易トイレや携帯トイレのほか、災害時応援協定による仮設トイレ等のリースで対応したいと考えています。